

イタリア巡礼とルルドへの旅 ⑧

ルルド2 巡礼1 ろうそく行列と水浴

2016年5月24日～25日 場所：フランス、ルルド Lourdes

ルルド1 (FINE ROAD—世界のモダンな教会堂を訪ねて
<http://www.christiantoday.co.jp/articles/19863/20160315/fine-road-18.htm>)

聖母マリアが少女ベルナデットに出現したルルド、水による癒しの奇跡。

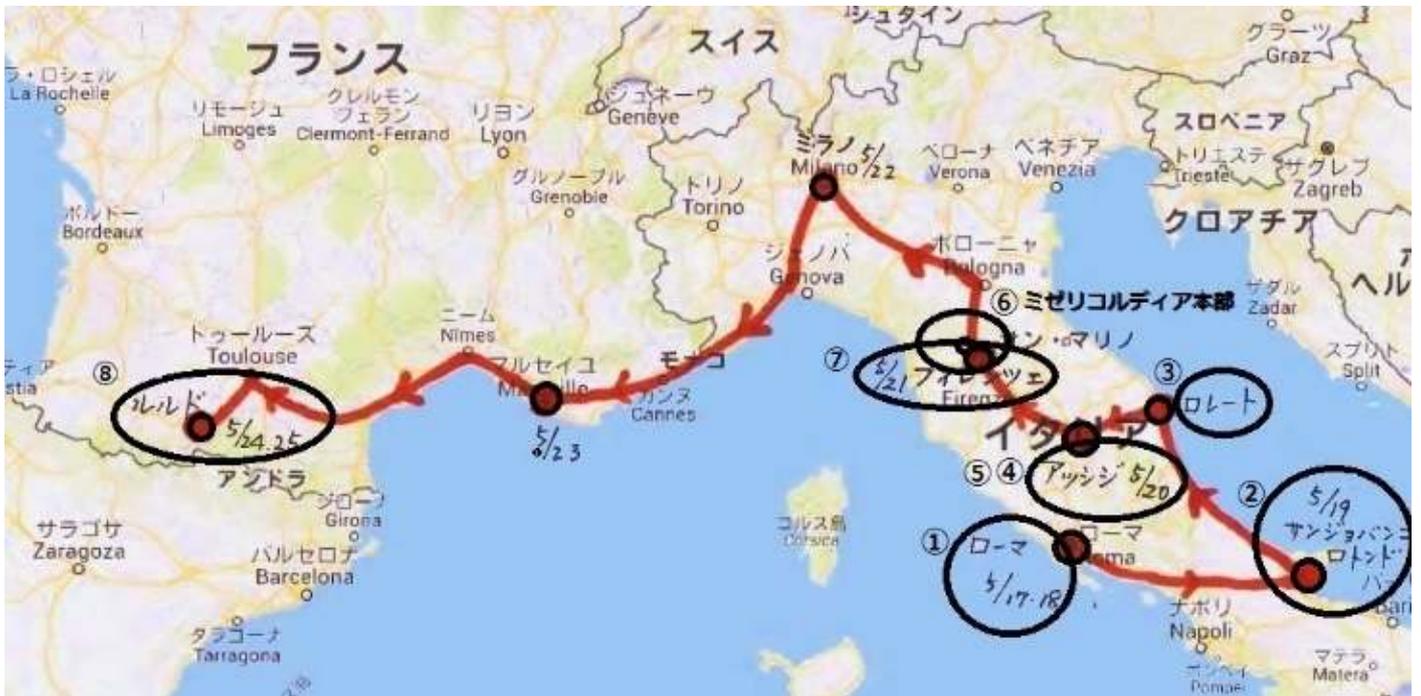
ろうそく行列の祈り濃紺の夜空に響く

ローマに始まりイタリアからフランスのニース、マルセイユ、カルカソンヌ、トゥールーズを経て、いよいよ巡礼の最終目的地ルルドへ。バスで7日間、2500kmを走り続け、真っ白な雪をいただいたピレネーの山々が見えた時にはついにルルドという胸の高まりを覚えた。

午後9時から念願のマリア・プロセション(ろうそく行列)。修道院から歩いて20分ほどでルルド大聖堂前の広場に着くと、ろうそく(細長いろうそくを白い紙で覆ったボンボリのようなもの)を手にした大勢の巡礼者たちが続々と集まっている。マリア像を先頭に車イスの人たち、それを押す人、シスターたち、巡礼団の行列が広場をゆっくり静かに行進しながら、ロザリオの祈りと讃美が繰り返される。「Pater noster qui es in caelis sanctificetur nomen tuum adveniat regnum tuum・・・」ラテン語の主の祈りも聞こえてきた。「あめのきさき」が唄われ、「アヴェ アヴェ アヴェマリア」の大合唱、皆が手にしたろうそくの明かりを高くかかげると、賛美は濃紺の夜空に響き渡り、天に昇っていった。



代表者が各国の言葉で祈り、巡礼者も声を合わせる。

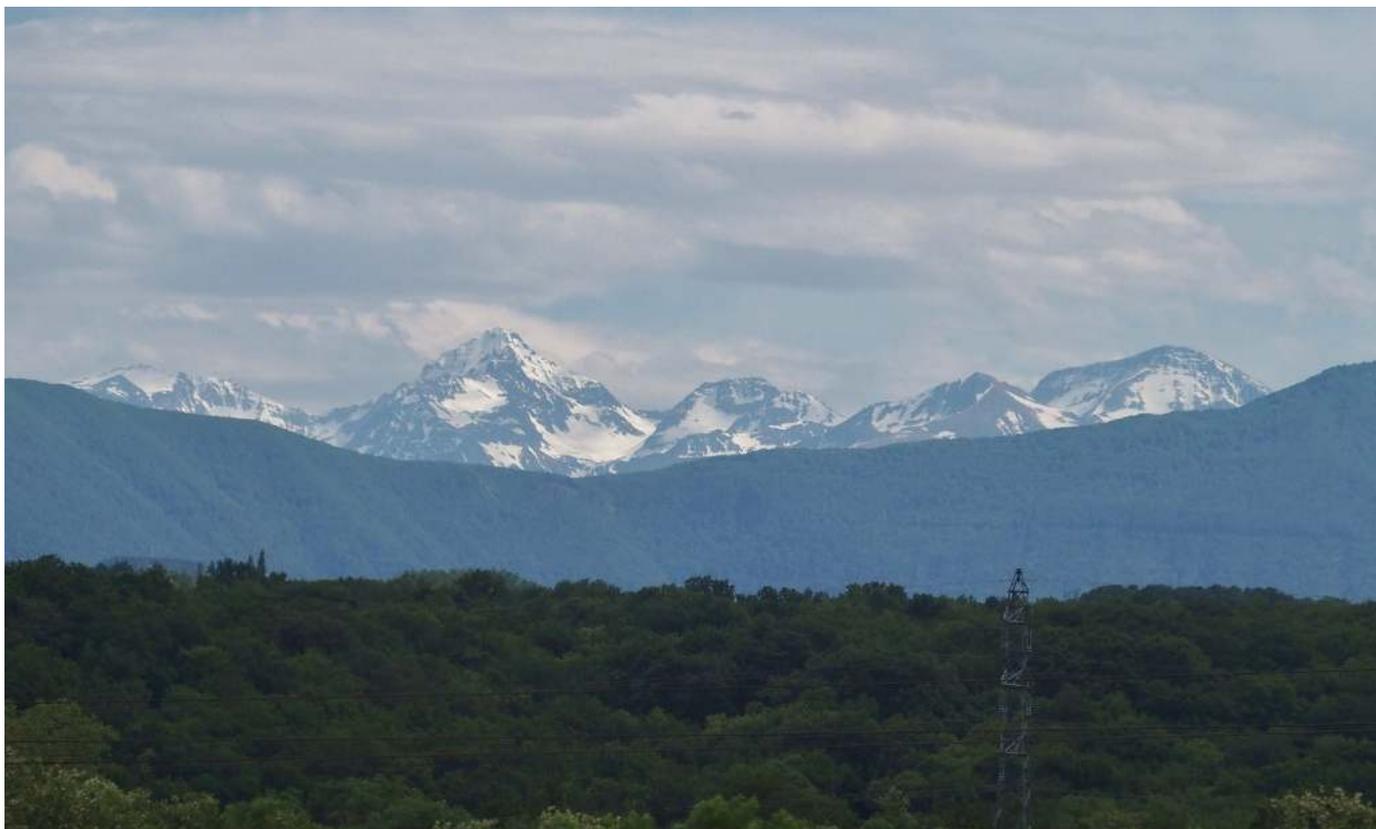


大聖堂全景 新緑の季節



水量豊かなガブ川、水がごうごうと流れている。橋を渡り、対岸の教会の上から大聖堂を見渡す。2年前訪れた時には大洪水の後で、流木や洪水の爪痕が各所に見られた。

(ルルド1 参照 <http://www.christiantoday.co.jp/articles/19863/20160315/fine-road-18.htm>)



ルルドはスペインとの国境の小さな町、白い雪をかぶった 3000m級のピレネーの山々が美しい。



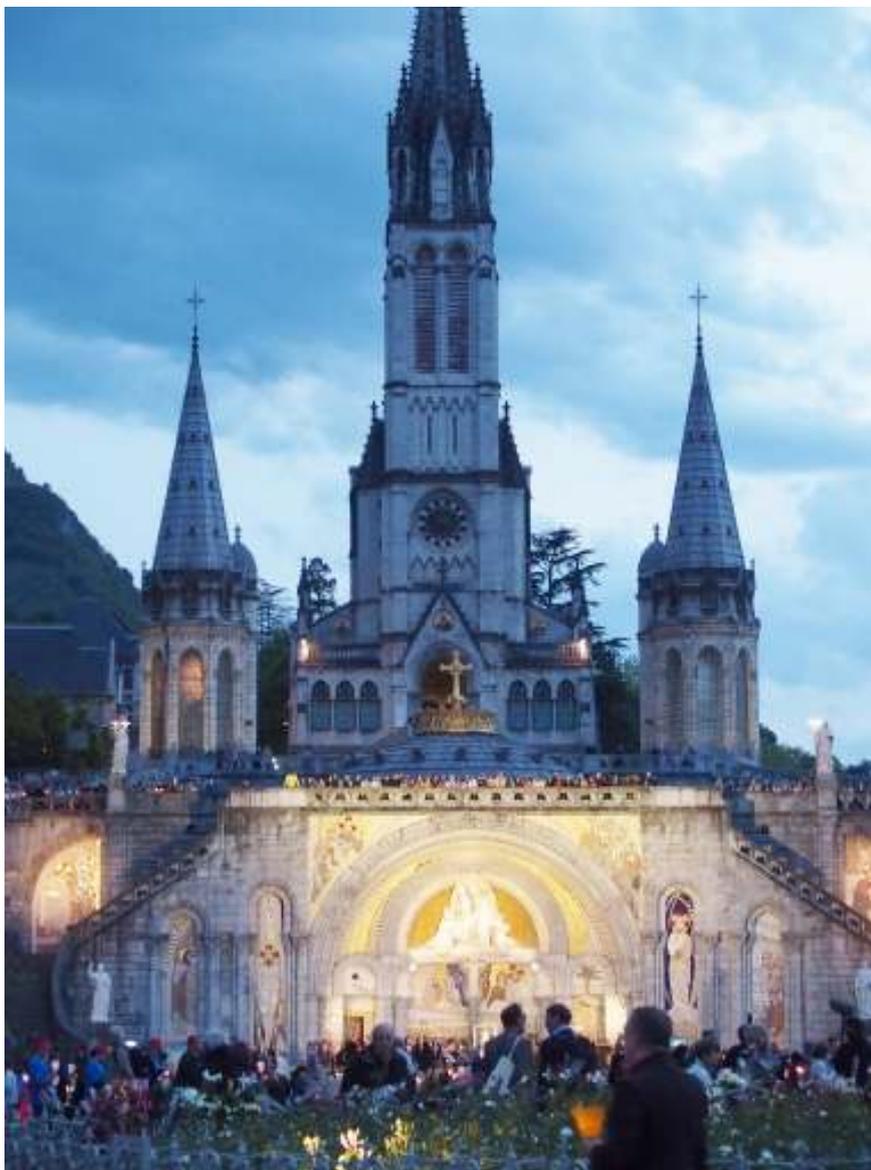
ろうそく行列は9時からスタート。夜9時過ぎでも、まだ明るい5月。



ろうそくを手に、歌いながら聖域を静かに行進する巡礼団



先頭はマリア像



大聖堂 正面ライトアップ



巡礼団の旗を掲げるキム神父



しだいに闇が迫り、ろうそく行列も終盤になると空は濃紺に変化していく。



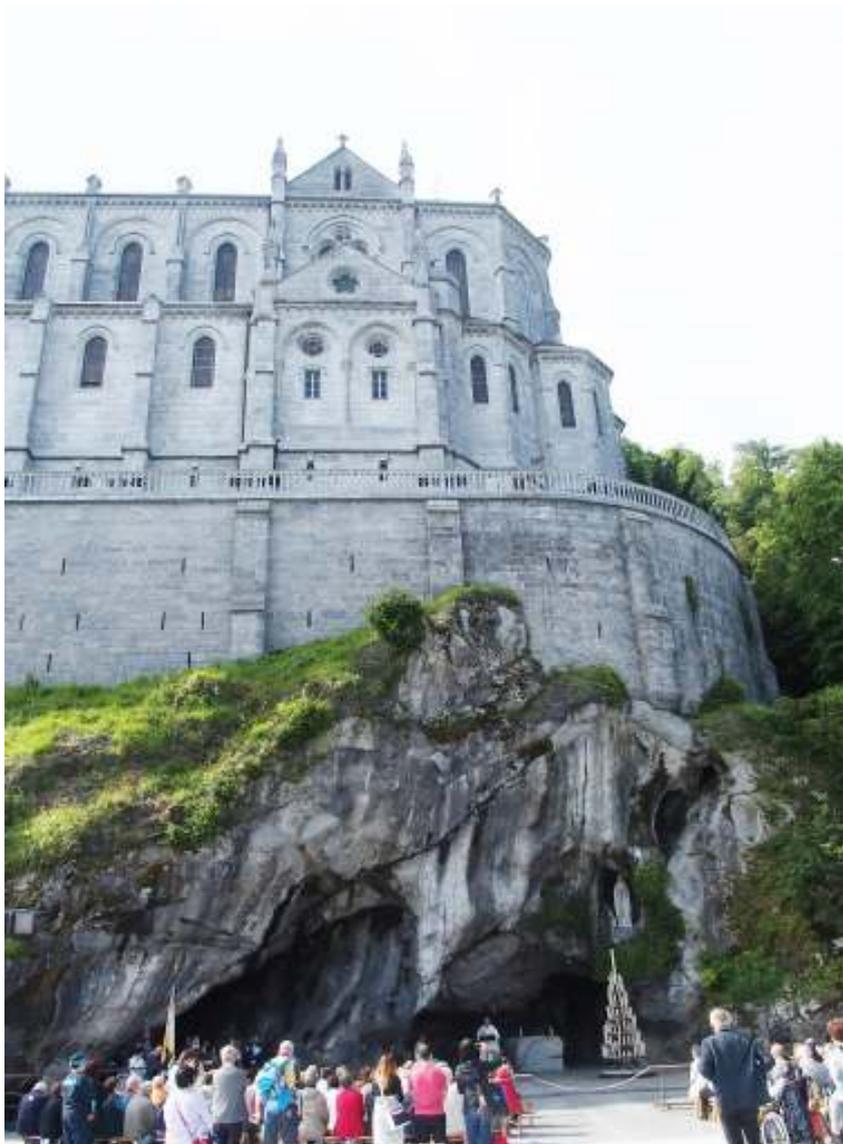
讚美とともに、ろうそくの明かりを高くかかげる



車イスの巡礼団一行は記念撮影、ルルドの水の奇跡を信じ、各国から大勢の巡礼者が訪れる。



グロット（マサビエルの洞窟）



グロットではミサが執り行われる



ろうそくを奉納する場所

ルルドの水浴



水浴場の前

「泉に行って水を飲み、顔を洗いなさい」と聖母マリアがベルナデットに言われたように、巡礼者はルルドの水の奇跡を信じ、水を飲み、水浴することができる。

朝いちばんに水浴場に行くと待合所にはすでに数十人の女性が並んで座っている。男性のほうは15分ほどで入れるようだ。長いベンチで1時間ほど順番を待ち、3~4人ずつ着替えの部屋に通される。着衣を脱ぐとボランティアの女性が紺色のガウンをかぶせてくれるので、イスにかけて水浴の順番を待つ。

次は一人、カーテンで仕切られた水浴室へ入ると、絶対に見えないようにガウンをはずし、素早く白い布を体に巻きつけてくれ、何か言われたが言葉がわからないので、「アーメン」と言う。二人のボランティアが両脇を支えて水の中に入るようにとすすめてくれ、細長い浴槽に足を入れる。「冷たい！」と驚く。(水温は常時12度という)「シットダウン」と声がして、足を投げ出して水の中に座ったかと思う間もなく、両側から引き上げられた。あっという間に終わった。

ガウンをつけ、着替えのイスのところに戻り、服を着る。体を拭ふかなくてもいいのが不思議だ。ボランティアの女性が私のブラウスの小さいボタンを一つずつ丁寧にかけ、自分でできるというのに靴下と靴まで履かせてくれた。外へ出ると生き返ったような、すがすがしい気持ちが出て、一昨日くじいた足が治る予感がした。